



- 輸出に関するリスク
- 知的財産管理・流出品リスク

リスクマネジメント

万が一の事故や災害によって会社が大きな損失を被ることがないように、さまざまなリスクを予測し、これらの予防に努めています。

リスクマネジメント

全社的なリスクについての取り組み

事業活動に関するさまざまなリスクに対応するために、「CSR統括委員会」の下に「リスク管理委員会」を設置しています。この委員会は、担当執行役員を委員長とし、総務、人事、広報、知財、環境管理、情報システム、法務、生産技術などの各部門長で構成され、全社的なリスク管理

体制・施策などについて検討しています。2008年度は、「BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)」「情報セキュリティ対策」「火災対策」および「新型インフルエンザ対策」を全社的な取り組みが必要な重要テーマとし、それぞれ分科会を設けて活動しました。



総合防災訓練

情報リスク——情報セキュリティの強化

近年は多くの重要な情報が電子化され、瞬時に大量の情報が漏えいするリスクが増大しています。ムラタが持続的に成長を続けるためには、技術ノウハウをはじめとする営業機密の管理強化が必要です。研究開発部門においてはパソコンの操作ログの

記録と監視を実施し、情報の取り扱いについて指導を進めています。また暗号化ファーリングシステムを導入し、重要情報の保護も開始しています。2009年度は、これら施策を事業部門、販売部門、管理部門へ適用を拡大します。

また、全従業員に正しい理解と行動を促すために「情報セキュリティガイドブック」を発行するとともに、情報セキュリティに関する知識を自己診断できるセルフチェックテストや教育を実施しています。2009年度は海外事業所においてもこれらの施策を実施します。

災害リスク——事業を継続するために

地震・台風・水害など自然災害の発生時には、製造ラインが停止する可能性があります。ムラタでは「お客様に製品を安定供給する」という責任を果たすために、建物・生産設備の耐震性・安全性確保、情報システムのバックアップ体制構築、在庫による供給の維持など、さまざまな対策を講じてきました。2008年度はBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)策定を国内の主要工場に展開するとともに、従来から実施してきた対策をBCPの観点から再検討しました。従業員の安全確保を目的とした「地震速報システム」を国内のすべての工場に配備するとともに、災害時の従業員

の安否確認を迅速に行うための「安否確認システム」の導入を本社から開始しています。また、火災についても重大なリスクと認識し、リスクの低減と被害の極小化に向けた取り組みを進めています。2008年度は有機溶剤使用工程の静電気による火災を防止するために、国内外の工場において社外専門家による現場指導を行うとともに、万が一の火災発生に備え、自動消火システムを配備しました。これらの大規模な自然災害や火災を想定した広域的な防災訓練を地元行政、消防・警察などと連携して実施しています。

Message

火災リスク回避のための生産現場での取り組み

火災リスクの多くは「作業しているまさにその現場」にあり、生産現場で働く一人ひとりが高い防災意識と防災態度を持つことが重要です。そこで私たちは、防災に関する知識教育の他、「危険予知トレーニング」を重視し、現場に潜む火災リスクを敏感に察知できる防災センスを磨くことに取り組んでいます。また、生産現場が複雑かつ乱雑であっては、火災リスクを見つけることは困難です。そこで、「現場の原理原則」を考え、シンプルで5S〔特に2S(整理・整頓)〕の行き届いた生産現場づくりに取り組んでいます。これは、防災面だけでなく、品質面・安全衛生面のリスク低減にも寄与するものと考えています。

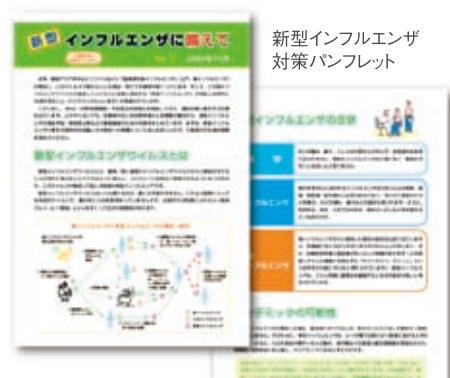
株式会社岡山村田製作所
第2製造部 製造課

中川 雄一郎

新型インフルエンザ——人命の安全を最優先に

鳥インフルエンザウイルス(H5N1)が変異して、ヒトからヒトへと感染が世界中に大流行する「パンデミック」という危機にいたる恐れがあります。ムラタでは、全世界の拠点を対象とする「新型インフルエンザ対策基本計画」を策定し、新型インフルエンザに関する知識の共有化と事前対策

の周知を行うとともに、WHOの警戒フェーズに応じた具体的な行動計画の策定を進めています。また、従業員向けに新型インフルエンザの対策パンフレットを作成し、従業員およびその家族レベルでの感染予防や食糧等の備蓄に関する啓発活動を行っています。



新型インフルエンザ対策パンフレット